

# 安藤、三部が準優勝



好調の三部写真提供・(株)卓球王国

全日本学生選抜卓球選手権 11月24、25日、大阪府門真市・東和薬品RACCTA Bドーム

全日本大学総合選手権(シングル)のランキング16位までの選手や外国人留学生、各学連推薦者らによって戦う本大会で、女子は安藤みなみ(商3・慶誠高)が、男子は三部航平(商2・青森山田高)が準優勝した。

一昨年優勝、昨年準優勝と好成績を残している安藤。「国際大会が続き、初日は体が思うように動かし、自分のプレーができなかった」と予選では1敗したものの、決勝トーナメントを順調に勝ち上がっていく。決勝は早大の阿部愛莉選手に1-4で敗れ、「何度か



3年連続決勝進出の安藤写真提供・(株)卓球王国

## U21男子単及川準優勝

ITTFワールドツアープラチナ・ドイツオープン 11月7日、12日、ドイツ・マクデブルク

「勝負どころでの思い切ったプレーや戦術、ひらめきが結果につながった」と話す。準々決勝から決勝まではアジアの選手が続き、「アジアの選

及川瑞基(商2・青森山田高)がU21男子シングルで準優勝した。

「勝負どころでの思い切ったプレーや戦術、ひらめきが結果につながった」と話す。準々決勝から決勝まではアジアの選手が続き、「アジアの選

# 専大スポーツ

No. 380

大会結果 予選は体育会ホームページ「専大ホーム」から確認してください  
専大スポーツ編集部 web (http://sensupo.web.fc2.com) / Facebook 大会結果を配信しています

感じた」。予選をプロット1位で突破し、決勝トーナメントも勝利を積み重ね、準決勝では同じ専大の郡山北斗(経営3・関西高)との接戦を制し、決勝に進んだ。

決勝は筑波大の坪井勇磨選手と対戦。高校の先輩を相手に先手を奪い、セットカウント3-1と

## 65kg級 中村初優勝

育館

全日本大学レスリング選手権 11月11、12日、福井県・おおい町総合運動公園体育館

フリースタイル8階級が行われ、65kg級で中村剛士(経営2・花咲徳栄高)が大会初優勝を果たした。

大学入学後はけがに泣かされ続け、大会を途中



## 男子500kg級 石川

# 自己ベストで優勝

スピードスケート(高)が得意の500kg級で自己ベストを更新、35秒48で優勝。1000kg級は3位、チームスプリントも優勝に貢献した。

専大に入ってから筋力強化に努めてきた石川。



大会で手にした三つのカワベルを持つ石川

った。昨年の成績を上回ることができ、手応えを感ずる」と前向きに捉えている。高橋玲央(法2)

## 3種目総合で3位

全日本学生馬術大会 10月30日、11月7日、兵庫県・三木ホースランドパーク

障害飛越、馬場馬術、総合馬術の3種目が行われ、3種目総合の大学日本一を争う今大会、専大は、山本開智主将(経営4・つくば開成高)が個性を収めた。

フェアリーカレ号とのコンビで出場した山本主将は「1年次から乗せてもらっていた馬で、今までは結果を出せていなかったが、最後に馬が応えてくれ、本当に感謝している」と語った。齊藤景太(経営4・札幌光星高)は「結果に満足はし



息の合ったジャンプでバーを跳び越える山本フェアリーカレ号

ら馬術部の活躍につながると思う」と述べた。

山本主将は「チーム全体が同じ方向に向かっていけば成績は付いてくる。成績が上がることが得意がいも感じられるようになっていこう」と、後輩に向けてアドバイスを送った。

(内田裕士・法1)

対に復活して、いつか必ず優勝する」という強い信念を持ち続けた中村。今大会は「万全のコンディションで臨むことができた」と語り、準決勝まで無失点で勝ち上がる安定した戦いぶり。決勝は互いにポイントを取

り合う白熱した展開となったが、競り勝った。優勝の瞬間、感情を爆発させた中村は喜びの雄たけびを上げた。

12月20日から開催される全日本選手権に向けて、「自分より強い選手ばかりだが、その選手た

## 中村未優

女子50kg級で中村未優(商1・埼玉栄高)が準優勝した。中村は「追い込まれた状態でも冷静にポイントを取り返せたことがよかった」と語り、全日本選手権に向けて「同じ階級に五輪王者がいるが、自分のレスリングができれば勝てない相手ではないと思うので、優勝を目指したい」と自信をのぞかせた。

(藤森)

に3位入賞。団体は7位に終わった。

(藤森峻祐・文2)

一回り大きくなり、スピードが出るようになった。「優勝できてうれしい。しかし、トップ選手と比べるとまだまだなので、気を引き締めて今後

(飛田翼・文3)

## 辻本が初優勝

ジャパンカップスピードスケート競技会 第2戦 11月25、26日、岩手県・奥営スキー場

辻本一史主将(経営3・帯広農高)が500kg級で36秒26を記録し、初優勝した。悪天候に見舞わ

れたが、「屋外のリンクのほうがいい記録が出る」という辻本主将は足を動かす彼らしいスケーティングを展開。ゴールした時点で優勝を確信する会心の滑りを披露した。辻本主将は「やっと自分らしい滑りができた。屋外リンクでは負けたくないという思いはある」と語った。(飛田)



一部復帰を喜ぶ部員たち撮影・藤森

## 3年ぶり1部復帰果たす

関東大学リーグ戦1部2部入れ替え戦 12月9日、埼玉県・熊谷ラグビー場B

2部1位の専大が1部8位の関東学院大に43-38で勝利し、3年ぶりの1部復帰を果たした。

今シーズンは下半身の強化に取り組み、当り負けしない強い体を手に入れた専大。その成果が実り、前半からフィジカル面で圧倒した。前半は郡司健吾(経営2・日川高)の3トライの大活躍などもあり、33-7と大きくリードして折り返した。

後半は関東学院大の猛攻を受け、1トライ差にまで詰められたが、意地で守りきった。

歓喜の瞬間を迎えると、選手たちは両手を突き上げ、喜びを爆発させた。

松土治樹主将(経営4・日川高)は「いつもどおりのプレーを心がけることで試合に集中できた」と振り返った。

村田互監督は「勝因は前半に点差を大きく広げたこと。何よりも最後まで諦めずに戦ったこと。満員のお客さんの声援が選手たちを後押ししてくれた」と応援に感謝を述べた。

(白鳥順也・経済1)